

総合評価

受診施設名	第2ふくちやま作業所	施設種別	就労継続支援B型事業
評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		

平成29年3月14日

総 評	<p>社会福祉法人第2ふくちやま作業所は由良川を眼下にする、見晴らしの良い場所に建っています。しかし、高台とはいえ上流には、牧川があり由良川と合流しています。近年の異常気象による集中豪雨被害が発生した経緯もあり、水害に対する対応が求められる地域でもあります。</p> <p>「社会福祉法人 ふくちやま福祉会」は1980年に「福知山共同作業所」を通所者6名で開所されたのが始まりです。1991年には重症心身障害者援護事業を開設し、翌年「社会福祉法人ふくちやま福祉会」として法人格を取得されています。以来、主に知的障害者児・精神障害者を対象とした通所事業に携わり、障害者の自立支援に取り組まれてきました。</p> <p>今回訪問した「第2ふくちやま作業所」は、2006年に「知的障害者授産施設（通所・定員20名）」として発足し、その後法改正により「就労継続支援B型事業」に移行し、現在に至っています。作業所の方針は「利用者の自立と社会経済活動への参加促進」と定め「仕事だけでなく、社会経験を広げるための『自治活動・文化的活動・生活支援』」があげられています。</p> <p>現在、作業は、①配食弁当 ②プラスチックごみ選別 ③農作業に分かれ班編成で、取り組まれています。中でもお弁当は、野菜をふんだんに使った手作りのお弁当です。「野菜が多いお弁当」と評判で、注文を制限せざるを得ない状況になっています。農作業班は畑を耕し、収穫したジャガイモからコロケを製造しています。事業所の自主製品が生まれ、商品化されている状況は評価できます。</p> <p>一方、現在法人全体で抱えている課題は、利用者や親の高齢化であり、親なき後の生活の場の確保が急がれています。対する施策として、グループホームやショートステイの整備が挙げられ、今年1月、新しいグループホームが竣工しています。しかし、グループホームづくりと共に、利用に際しての利用料の利用者負担が案じられています。施設長は、改めて日中作業に力を入れ、高い工賃を目指し、利用者の障害特性に配慮した仕事の開拓に努力されています。</p> <p>「利用者は、作業所に来るのを楽しみに、皆勤です。地域の人にも助けられています」と職員から聞くことができ、厳しい職員体制の中からの声に期待が持てます。</p>
-----	--

<p>特に良かった点</p>	<p style="text-align: center;">Ⅱ-5-(1)①地域との交流と連携</p> <p>平成28年、初めて「ふれあいあます納涼祭」が開催され、下川口地域活性化委員会のみなさんと一緒に開催し、地域との交流や連携を深める機会を得ています。畑を借り耕作に携わっている農作業はコロッケ製造や弁当づくりの材料に活かされ、地元からも食材を求め、当地にて販売活動を展開し、地域と相互交流による関係が築かれています。</p> <p>弁当班は、地域住民から1日100食の注文を受け、弁当を作り、配食班が地域住民宅へ届けています。配達時に職員・利用者は弁当の感想を聞きこのことは、地域とのコミュニケーションの機会にもなっています。</p> <p style="text-align: center;">Ⅰ-2-(1)②事業計画の作成に参加</p> <p>事業計画は、利用者も参加する作業班別のグループ会議・職員会義・日中活動会議で、作業活動の現場の課題や方針などについて利用者・職員が一体となって検討・評価をおこない、適宜見直しもされています。これらの実践を踏まえ策定された事業計画は管理者会議・常任理事会・理事会を経て法人としての事業計画が確定され、組織的な策定の過程に利用者も一翼を担っています。</p> <p style="text-align: center;">Ⅳ-2-(6)①余暇・レクリエーションについて</p> <p>余暇・レクリエーションについては、第1、第3土曜日は利用者の希望に沿って活動に取り組んでいます。京都府主催のスポーツレク・福知山市運動会・カラオケ・鍋・一泊旅行など、障害のある人たちの要望をもとに、自由参加ですが企画の段階から当事者が参加し実行されています。1泊旅行は、仕事を終えた金曜日の夕方から出発し、楽しんでいる様子は、広報誌「ひめがみ」から読み取ることができました。</p>
<p>特に改善が望まれる点</p>	<p style="text-align: center;">Ⅱ-4-(1)② 災害時の安全確保の取り組み</p> <p>事業所が大きな河川に隣接していることから、特に通所事業であり、防災機関や行政機関などと協議しながら、地域に密着した情報を迅速に入手できる体制整備を期待します。そのうえで当事業所の判断基準のもとに、事前・発令中・事後にわたる対策を行動基準に即し、職員や地域との連携を図りつつ実効性のある取り組みを緊急課題として期待します。</p> <p style="text-align: center;">Ⅲ-4-(1) サービスの水準を確保するための実施方法の確立</p> <p>マニュアルや手順書について、危機管理・感染症対策類は設けられていますが、運営やサービス全般に及ぶマニュアル類の点検や整備が望まれます。特に各種作業（食品製造・農業・プラスチックごみ等）におけるマニュアル類の整備を望みます。</p> <p style="text-align: center;">○障害のある本人への各種説明文の工夫</p> <p>利用者に対しては、かみ砕いて説明をされていると伺いました。一方文書等には障害特性を踏まえた取り組みが確認できませんでした。当事業所の知的障害のある利用者にはわかりやすい文字や文章内容面の工夫、イラストや写真の挿入、色使いなど工夫され、利用者が自らの仕事や生活に関心を寄せ、活用される書面を期待します。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【障害事業所版】 評価結果対比シート

受診施設名	第2ふくちやま作業所
施設種別	就労継続支援B型
評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
訪問調査日	平成29年1月31日

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立されている。	① 理念が明文化されている。	A	A
		② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	A	A
	I-1-(2) 理念、基本方針が周知されている。	① 理念や基本方針が役員及び職員に周知されている。	B	A
		② 理念や基本方針が障害のある本人（家族・成年後見人等含む）に周知されている。	B	B
I-2 計画の策定	I-2-(1) 事業計画の策定について	① 各年度計画を策定するための基礎となる中期（概ね3年）もしくは長期（概ね5年以上）計画が策定されている。	A	A
		② 事業計画の策定が組織的に行われている。	B	A
		③ 事業計画が職員に周知されている。	B	A
		④ 事業計画が障害のある本人（家族・成年後見人等含む）に周知されている。	B	B
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	B	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	B	B
	I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みにリーダーシップを発揮している。	B	B
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みにリーダーシップを発揮している。	B	A

[自由記述欄]

I-1-(1) ① 法人理念は、「どんな障害の人も、どんなに障害の重い人も、大切にしよう。」「地域で安心して、働き暮らし続けることができる地域社会を」「障がいのある人を主人公に、市民とともに歩んでいく」と明文化されている。自立と支援、地域との暮らしを目指す障害者福祉に基づく事業所の使命・役割を読み取ることができる。理念は、パンフレット・広報紙・事業計画等に記載され公表されている。				
I-1-(1) ② 理念に基づく基本方針は事業計画や中長期計画に盛り込み、これを事業の運営方針とし理念との整合性は図れている。				
I-1-(2) ① 全職員を対象とした職員会議で説明し周知に努めている。理念・基本方針は、事業内職業能力開発計画における人材育成の基本方針にも位置づけ、職員集団として利用者のための統一した考えとして、ともに行動できる人材育成を実践している。				
I-1-(2) ② 重要事項説明書に理念や基本方針について4項目にまとめて明記し、事業所の運営方針として契約時に本人及び関係者に説明している。また、家族の会における説明や広報紙に記載して周知に努めているが、障害のある本人に対する説明手法等の取り組みまでには及んでいない。				
I-2-(1) ① 各事業所の年度毎の「まとめ」に基づき単年度の事業計画は策定されている。法人設立20周年を機に、第一次3か年計画に続き、2016年3月、第二次3か年計画が策定されている。法人の理念を具体化するための成果や課題が反映された内容になっている。				
I-2-(1) ② 事業計画は、利用者も参加する作業班別のグループ会議、職員会議、日中活動会議で、作業活動の現場の課題や方針等について利用者・職員が一体となって検討・評価を行っている。また、これらの実践結果を踏まえ管理者会議・常任理事会・理事会を経て確定する仕組みがあり、組織的に策定が行われている。				
I-2-(1) ③ 作業別に開催する会議結果や事業計画の見直しなど、職員会議においてわかりやすい実績資料を配布し、作業班別に発表して全員に周知のうえで作業を進めている。会議に参加できなかった職員への説明に漏れがないよう管理者は意識されている。				
I-2-(1) ④ 利用者に配布する広報紙「ひめがみ」に掲載し、家族には年2回開催される家族の会で説明している。障害のある本人に対しては、口頭で伝言することとまっている。				
I-3-(1) ① 法人の運営規程に管理者としての職務内容が明記されている。管理者は厳しい事業所運営に常に立ち向かい、利用者と一緒に活動し役割と責務を行動で示している。				
I-3-(1) ② 法令順守に対する基本的事項・管理・流れは法人本部からメール等により指示されてきているが、行政の集団指導や研修会の参加及び事業所関係者連絡会議等により情報を入手し、職員に情報提供している。しかし、事業所内の職員への周知や理解を図るための状況づくり、リスト化等の工夫が望まれる。				
I-3-(2) ① コロケ製造・畑体験・販売活動を展開する過程では、各作業の会議や職員会議からの意見を集約し、改善を目指して具体的な体制をつくって挑戦している。ただ、効果的な会議の運営などに十分な配慮ができていたか等、リーダーとして振り返られている。				
I-3-(2) ② 利用者の自立とともに売上高も重要なポイントであることから、管理者は利用者とのコミュニケーション能力を高め、事業の効率化を図り人員配置にも配慮しながら働きやすい環境整備に努めている。例として、「あまづキッチン」開設に至る取り組み、地元の食材を活かした「弁当づくり」等のアイデア・製造・販売にリーダーシップが発揮されている。				

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	B	B
		② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見し、改善を行っている。	C	B
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立し、職員のやる気向上に取り組んでいる。	B	B
		II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	B	A
		① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	B	A
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	B	B
	II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行なわれている。	③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行なっている。	B	B
① 社会福祉に関する資格取得のための実習生の受け入れと育成について基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、積極的な取り組みをしている。		B	B	
II-3 個人情報の保護	II-3-(1) 障害のある本人等の個人情報を「個人情報保護法」に基づき適切に管理している。	① 障害のある本人等の個人情報を「個人情報保護法」に基づき適切に管理している。	A	A
II-4 安全管理	II-4-(1) 障害のある本人の安全を確保するための取り組みが行なわれている。	① 緊急時（事故、感染症の発生時など）における障害のある本人の安全確保のための体制が整備されている。	B	B
		② 災害時に対する障害のある本人の安全確保のための取り組みを行っている。	B	B
		③ 障害のある本人の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	B	B
II-5 地域や家族との交流と連携	II-5-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 障害のある本人と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 地域の福祉ニーズを把握し、事業所が有する機能を地域に還元している。	C	B
		③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	C	C
	II-5-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 障害のある本人を支援するため、必要な社会資源や関係機関を明確にして連携している。	B	B
		② 家族との定期的な連携・交流の機会を確保している。	A	A

【自由記述欄】	
II-1-1(1)	①法人本部による調査の他、福知山市の障害者・高齢者事業連絡会に法人から2名が参加しており、福祉サービスのニーズの動向などの情報を入手し管理者会議にて報告を受けている。事業所独自の動向把握については、可能な限り、情報収集に努力されている。
II-1-1(2)	②毎週開催する作業所グループ会議の意見を集約し、職員会議で報告。また、毎週開催されるデイ会議で経営状況の変化と課題が把握できる仕組みがあり、職員への周知に努めている。また、総括的には、管理者会議・理事会で検討され、組織的に中長期計画及び年度の事業計画にも反映できるよう取り組まれているが現場レベルでの経営改善の実施には厳しい状況がうかがえる。
II-2-1(1)	①人事管理は法人本部が主体となり、能力開発計画基準による「職能を得た人づくり」の方針が確立されている。また、中長期計画には、具体的な人員体制の考え方が明記されているが、事業所においては、人材確保を含め厳しい現状が伺える。
II-2-2(1)	①法人本部の人事センターが管理し、法的な育児休業・有給休暇など適切に対応している。時間外勤務管理は、ノートに記入しチェックして管理している。また、弁当の食数や販売数等々の変動に伴い、作業にも運動することから具体的な立案や改善が難しい一面もある。
II-2-2(2)	②共済会に加入する総合的な福利厚生制度があり、職員全員に案内している。職員健康診断の受診は、各自が選択した関係機関で費用は、法人が負担している。
II-2-3(1)	①法人は事業内職業能力開発計画を設け、人材育成に係る基本方針・管理方針・能力基準・教育訓練等に至る計画を立案し、年度毎の研修計画・計画内容・対象者等を明確に示し、中長期計画にも掲げている。
II-2-3(2)	②組織として研修計画は策定されている。業務に必要となる研修は、例えば計画に基づく、新任・中堅リーダー研修等には、業務を調整し受講させている。
II-2-3(3)	③研修を受講した職員は報告レポートを提出しているが、他の職員に報告する機会は設けられていない。現場作業が多忙で時間確保が困難である場合、報告書面の掲示やファイルにし、閲覧できるように、工夫し、職員の研修意欲を高める取り組みが望まれる。
II-2-4(1)	①法人本部にて実習生を受け入れる仕組みがあり、実習プログラムを立案し対応している。ジョブパークから受け入れた実習生は、その後就労に結びついた。
II-3-1(1)	①個人情報保護の実施取り扱いに関する運用管理規程があり、運営規程や重要事項説明書にも明記されている。利用者との関係、広報紙への配慮、日常生活の中においても配慮し運用されている。
II-4-1(1)	①通所中の事故・感染症等の緊急時、障害のある本人・家族との連絡は、日々使用の連絡帳に記載している。緊急時に備え、各関係機関や地域・自治会とも連絡体制が確保されている。今後、様々な事態を想定したマニュアルの作成が望まれる。
II-4-1(2)	② 防火管理者のもとに消防署（福知山北分署）・地域の協力によりキッチン部門年2回・他は年1回の防火訓練を実施している。事業所は高台に位置しているが、すぐ上流には大きな牧川があり正面の由良川と合流している。近年の異常気象による集中豪雨被害が発生した経緯があり、水害に対する対応が求められる。
II-4-1(3)	③ 市の福祉連絡協議会に参加し、昨年、障害者の入所施設で発生した事件の要因分析とその対応や昨年の集中豪雨における帰宅困難事例から、緊急事故対応として職員に利用者の安全確保に係る研修を行っている。
II-5-1(1)	① 下川口地域活性化委員会のメンバーとなり、「ふれあいあまづに納涼祭」や地域の伝統行事を守る「祭り」の実行委員を担い、事業所として参加している。また、畑を借りている農作業班、弁当作りやコロッケの製造など地元から食材を足し、販売活動を展開し、常時、地域との協力関係が築けている。
II-5-1(2)	②事業所は弁当班を編成し、地域の住民から1日100食の注文を受けて弁当を作り、配食班が地域住民宅へ届けている。事業所は、配達時に職員・利用者が弁当の感想を聞き取るなど、弁当づくりをとおして地域とのコミュニケーションの場となっている。
II-5-1(3)	③ボランティアの受け入れに対する姿勢及びマニュアル、受け入れ対応等について現段階では確認できなかった。地域との関係は築かれている事業所なのでボランティアとの関係が築けることを期待したい。
II-5-2(1)	①事業所は就労支援B型の提供にあたり、公共職業安定所・生活支援センター等の関係機関と連携し、利用者の要望に応じた職場開拓に努めているほか、社会福祉協議会の金銭管理や権利擁護事業が活用できる仕組みはあるが、職員・利用者には周知するまでには至っていない。
II-5-2(2)	②利用者の家族でつくる「親の会」を設置し、総会（年1回）・定例会（年2回以上）を定期的開催し、連携・交流の機会が確保されている。利用者の個々について職員の担当者（法人も含めて）と家族との相談や連絡を行う連携体制がある。また、広報紙等やイベントをとおして必要な情報を提供している。

Ⅲ適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 サービスの開始・継続	Ⅲ-1-1 (1) サービス提供の開始が適切におこなわれている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な選択を提供している。	B	B
		② サービスの提供を始めるにあたり障害のある本人(家族・成年後見人等を含む)に説明し、同意を得ている。	A	B
	Ⅲ-1-1 (2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	① 支援内容の変更や暮らしの場の変更にあたり生活の継続性に配慮した対応を行っている。	B	B
Ⅲ-2 個別支援計画の作成とサービス提供手順	Ⅲ-2-1 (1) 障害のある本人のアセスメントが行なわれている。	① アセスメントとニーズの把握を行っている。	A	B
	Ⅲ-2-1 (2) 障害のある本人に対する個別支援計画の作成が行われている。	① 個別支援計画を適正に作成している。	B	A
	Ⅲ-2-1 (3) 個別支援計画のモニタリング(評価)が適切に行われている。	① 定期的に個別支援計画のモニタリング(評価)を適切に行っている。	B	B
	Ⅲ-2-1 (4) サービス実施の記録が適切に行なわれている。	① 障害のある本人に関するサービス実施状況の記録が適切に行なわれている。	B	B
		② 障害のある本人に関する記録の管理体制が確立している。	B	A
③ 障害のある本人の状況等に関する情報を職員間で共有化している。		B	A	
Ⅲ-3 障害のある本人本位の福祉サービス	Ⅲ-3-1 (1) 障害のある本人ニーズの充足に努めている。	① 障害のある本人ニーズの把握を意図した仕組みを整備している。	B	A
		② 障害のある本人ニーズの充足に向けた取り組みを行なっている。	B	B
	Ⅲ-3-1 (2) 障害のある本人が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 障害のある本人(家族・成年後見人等含む)が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	B	B
		② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
		③ 障害のある本人(家族・成年後見人等含む)からの意見等に対して迅速に対応している。	B	B
Ⅲ-4 サービスの確保	Ⅲ-4-1 (1) サービスの一定の水準を確保する為の実施方法が確立されている。	① 提供するサービスについて一定の水準を確保する為の実施方法が文書化されサービス提供されている。	B	B
		② 一定の水準を確保する為の実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	C	C
	Ⅲ-4-1 (2) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行なわれている。	① サービス内容について定期的に評価を行なう体制を整備している。	C	C
		② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施している。	C	C

【自由記述欄】	
Ⅲ-1- (1)	①事業所情報はホームページやパンフレット・ひめがみ（広報誌）で提供している。見学には随時対応している。体験希望者には、農作業班での体験を2～3日行っている。障害のある本人に理解しやすい説明書の作成はおこなわれていない。サービス提供時の料金についての説明資料にも不十分なところがある。
Ⅲ-1- (1)	②利用開始時に重要事項説明書や契約書を用いて説明し、障害のある本人（家族・後見人）の同意を得ている。現行の書類のみで障害のある本人に十分な理解を得るには困難ではないかと思われる。説明や書類表現に検討の余地がある。
Ⅲ-1- (2)	①当事業所を利用されている方で、他の事業所に移られた事例はない。グループホームやショートステイ入所時の支援はおこなっている。当事業所通所に困難を生じないよう配慮している。移行に際しての手順や引継ぎ文書は定めていない。
Ⅲ-2- (1)	①入所時にアセスメントシートの内容項目に沿った聴取が行われている。必要な項目は満たしているが、その後の見直しは定期的にはおこなわれていない。長期にわたるサービス利用期間では、障害のある本人を取り巻く環境・身体状況などの変化がある。サービス開始後の見直しを定め実施され、職員間で情報を共有されることが望ましい。
Ⅲ-2- (2)	①個別支援計画はサービス管理責任者を中心に職員会議で検討し作成している。見直しは6ヶ月毎や状態変化時におこない、事前に障害のある本人との個人面接で意向の確認をおこない書面に記している。
Ⅲ-2- (3)	①モニタリングは計画見直し時におこなっている。職員会議で担当職員や他の職員の意見を反映させている。家族の意向は家族会や行事などで聞き取りをおこない、計画見直し後に説明をおこなっている。再アセスメントには繋がっていない。
Ⅲ-2- (4)	①作業の活動記録は何をおこなったかのチェック方式をとり、個人記録は職員の気づきを中心に書かれている。もう少し、作業時の障害のある本人の表情や動作・言葉・意向（意見・要望）などが見える記録になると、より有効ではないか。期待したい。
Ⅲ-2- (4)	②法人で「特定個人情報取扱規定」は整備されている。規定に基づき記録の取り扱いをおこなっており、職員にも口頭で説明し取り扱いへの意識を高めている。利用者の記録や情報の管理・開示は、重要事項説明書内に明記し障害のある本人（家族）に説明している。
Ⅲ-2- (4)	③職員間の情報の共有は、作業グループごとの毎朝・夕の引継ぎや作業グループ会議（週1回）職員会議（2週に1回）でおこなっている。サービス担当者会議などの情報も共有している。
Ⅲ-3- (1)	①運営規定16条9-（1）で定期的に利用者との面接をすること。と明記されており、6ヶ月毎の意向確認が行われ個別支援計画にいかされている。朝の会・終わりの会でも、仕事の確認や意向確認はおこなわれている。作業中でも職員は傾聴の姿勢を示している。家族からも家族会や来所の機会に聞き取っている。
Ⅲ-3- (1)	②利用者から聞き取ったニーズの検討は職員会議でおこない、利用者へ返答している。法人内の「日中事業所会議」や「日中プロジェクトチーム会議」で検討しているが、分析までには至っていない。
Ⅲ-3- (2)	①日常的には「担当職員に何でも伝えてください」と利用者へ伝えており、相談スペースも設けている。日常的に相談に対応している。相談体制をわかりやすく説明した文章は確認できなかった。
Ⅲ-3- (2)	②苦情対応は玄関の目につく場所にポスターが掲示してある。苦情解決のマニュアルは整備されている。法人に利用者から提出された苦情もあり、現在解決に向かっていく。
Ⅲ-3- (2)	③利用者から意見・提案を受けた場合は迅速に対応しサービスの改善に反映させている。時間がかかる場合や、改善したことはその旨伝えている。意見・提案を受けた場合の対応マニュアルは整備されていない。
Ⅲ-4- (1)	①マニュアルや手順書に危機管理・感染対策・防災などはあるが、部分的に充足できていない。特に各種作業（食品製造・農業・プラスチックごみ選別）におけるマニュアルか手順書は必要ではないか。統一事項や安全面・プライバシーにも配慮した記述を期待したい。
Ⅲ-4- (1)	②実施方法が定められておらず実施されていない。
Ⅲ-4- (2)	①職員会議では、あげられたサービス内容に対して検討をおこなっている。総合的な評価は今回が初めての第三者評価であり、評価に先立ち初めて自己評価をおこなった。
Ⅲ-4- (2)	②管理者は「評価を受けた後、課題を検討していきたい」と述べられた。自己評価の継続は今後の課題である。

IV障害のある本人を尊重した日常生活支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 障害のある本人を尊重した日常生活支援	IV-1-1 (1) 障害のある本人を尊重する取り組みがなされている。	① 障害のある本人を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。(プライバシーへの配慮)	B	A
		② コミュニケーション手段を確保するための支援や工夫がなされている。	B	A
		③ 障害のある本人の主体的な活動を尊重している。	B	B
IV-2 日常生活支援	IV-2-1 (1) 清潔・みだしなみ	① 【入浴】入浴について障害のある本人(家族・後見人等含む)の希望を尊重したサービスが提供されている。	B	B
		② 【衣服】衣服について障害のある本人(家族・後見人等含む)の希望を尊重したサービスが提供されている。	B	A
		③ 【理美容】理美容について障害のある本人(家族・後見人等含む)の希望を尊重した選択を支援している。	B	A
	IV-2-2 (2) 健康	① 【睡眠】安眠できるように配慮している。	B	B
		② 【排泄】障害のある本人の状況に合わせた排泄環境を整えている。	B	A
		③ 【医療】障害のある本人の健康を維持する支援を行っている。	B	A
	IV-2-3 (3) 食事	① 【食事】楽しい食事ができるような支援を行っている。	B	A
	IV-2-4 (4) 日中活動・はたらくこと	① 障害のある本人の意思を尊重した日中の活動の取り組みを行っている。	B	B
	IV-2-5 (5) 日常生活への支援	① 障害のある本人の意思を尊重した日中の活動の取り組みを行っている。	B	B
		② 事業所の外での活動や行動について障害のある本人の思いを尊重した取り組みを行っている。	B	B
	IV-2-6 (6) 余暇・エークリエーション	① 障害のある本人の意思を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような余暇、レクリエーションの取り組みを行っている。	B	B

[自由記述欄]

IV-1-1 (1) ①契約書第7条事業者の基本的義務に、「自立等の支援」「利用者の意思等の尊重」があげられ、事業計画は理念や、基本的義務を踏まえ策定されている。「障害者の人権」を意識した実践に向け、組織的に能力開発計画や研修計画が策定されている。プライバシー面では、広報の写真等において、個人情報保護の対応がされている。「倫理要綱」は確認できなかった。

IV-1-1 (1) ②アセスメントシートに「意思疎通状況」欄が設けられ、具体的な様子が記載され、意思伝達に制限がある人には、担当職員を設けている。利用者全員の顔写真を撮り、朝の会で当日の仕事仲間を確認するために活用している。表情・仕草・癖等を観察し職員間の利用者理解の共有に努めている。

IV-1-1 (1) ③自治会はないが、朝の会・終わりの会は利用者には話題を向け、会話ができるようにしている。誕生会や旅行の企画、司会は利用者が分担し役割を担っている。家族会は定期的で開催され、家族のニーズ把握に努めている。家族会の会場が法人本部の場合は他の事業所の家族との交流の場になっている。

IV-2-1 (1) ①入浴は事業としてはなく、関係情報の収集は不十分である。ただし、シャワーコーナーは準備され作業による汚れや、排泄時の清潔確保に使っている。旅行では入浴が楽しみの一つとなっており、マナー等を学ぶ機会になっている。

IV-2-1 (1) ②食品製造に携わっていることもあり、衛生面から清潔や身だしなみには注意している。寒さ・暑さへの衣服調整、季節の変わり目の着脱面の支援、家族が多忙で対応に窮されている場合には家族と相談し対応している。帽子など、給料から購入する場合は、家族と話し合い支援している。

IV-2-1 (1) ③整髪は家族が対応されている。整髪に関しこだわりや拒否をする利用者はないが、手に麻痺ある利用者の髭剃りについては家族による対応が困難なため、話し合い電気カミソリを購入し事業所で支援している。

IV-2-2 (2) ①体調把握の点から、睡眠状態も視野に入れ注意を払い表情等を観察し、気になれば体温を測り確認をし、家族に連絡をしている。家族から睡眠も含め相談があれば対応し内容によっては関係機関を紹介している。

IV-2-(2)②排泄面に介助を必要とする人はない。しかし体調不良や、障害が原因で便を漏らされる利用者、体調不良から失敗される利用者もあり、プライバシーに配慮し対応している。家族は失敗の際のグッズを準備されている。トイレ環境は場所的にゆとりがある。寒さ対応には便座の電池交換に留意されている。
IV-2-(2)③健康診断は年2回利用者全員が作業所の健康管理の一環として地域の病院で受けている。予防注射は希望者のみ実施している（補助あり）。通院を要する利用者には、原則家族が同行されている。利用者単独の通院にはバス停まで職員が同行する場合や、予約の取り方がわからない利用者への支援もしている。
IV-2-(3)①作業でお弁当を作っているため、本人達の希望により当事業所の弁当を昼食に提供している。食事提供加算があり、利用者は割引がある。現在お弁当の持参者はない。糖尿病食等について、食事面での配慮が必要な場合は可能な範囲で対応している。
IV-2-(4)①複数ある作業種目の選択は、本人の希望・障害特性を配慮し、利用者と話し合い可能な限り、納得の上に決めようとされている。工賃は利用者の将来のグループホーム利用を念頭に入れ、利用料・交通費・生活の楽しみ等が賄える工賃支給を目指し、受注開拓に努めている。配食弁当は注文が殺到し、利用者の能力等を勘案し断ることもある。
IV-2-(5)①金銭管理にかかわる「お金の預かり」、学習プログラムの取り組みは施設として実施していない。家族の対応となっているが、無駄遣いや購入内容に問題が見られ、日常生活自立支援事業等の利用等が検討されている。
IV-2-(5)②日常生活への支援は、作業活動がメインの通所作業施設であり、日祝日の対利用者の取り組みはない。一人で大阪までコンサートに出かけている利用者、自転車で外出を楽しんでいる利用者もある。職員は20歳を超えた利用者であり、静観し様子を見ている状況である。
IV-2-(6)①余暇・レクリエーションについては、第1、第3土曜日に利用者の希望に沿って活動に取り組んでいる。京都府主催のスポーツレク・福知山市運動会・食事会・カラオケ・鍋・一泊旅行など、障害のある本人に確認し、自由参加であり内容にもよるが半数程度の利用者が参加している。